

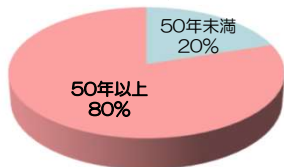
## 1. 計画の目標

予防保全型管理を導入することで、今後**50年間施設を健全な状態**に保ち、**対策費用の低減・平準化**を図る

## 2. 施設の現状

## ○懸念されている施設の経年劣化 【20年後の状況（2042年度）】

20年後、海岸保全施設（24海岸・延長約18km）の内、約80%が完成から50年を経過する見込み



大島 砂浜海岸



八丈島 横間ヶ浦海岸

## 3. 定期点検の内容

令和3年度に一次点検、令和4年度に二次点検を実施  
従来と同様の手法に加え、**新技術**を適用

## ○外観変状調査等（UAV写真計測・グリーンレーザ、水中ドローン）

従来の目視点検に加え、カメラ・レーザを搭載したUAVや水中ドローンを使用し、写真計測や点群データを取得することで、施設外観の状況を調査



目視点検実施状況

新技術活用



UAV・水中ドローン点検実施状況

## 4. 取組内容

## 【予防保全型管理】

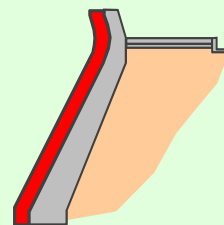
定期点検により施設の状況を把握し、**機能が低下する前に対策工事を実施**

## ○対策対象とする海岸

- ・変状状態が予防保全段階である施設
- ・必要な耐震性、天端高を満たしていない施設

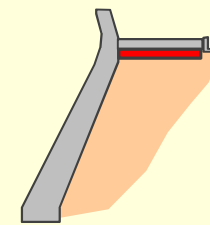
## ○増厚工

劣化した既設護岸の表面に対し、コンクリートを打設する



## ○充填工

護岸背面の空洞部に対し、モルタル充填等を行う



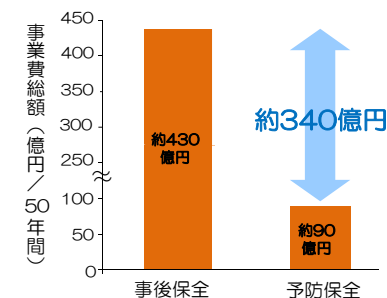
## 5. 事業効果(50年間)

## ○安全・安心の確保

機能を確実に発揮させ、津波・高潮等の災害から都民の命と暮らしを守る

## ○コスト削減効果：約340億円

予防保全と、それを行わない場合50年分のコストを比較



## 6. 事業計画(10年間)

## ○令和6年度～令和15年度の10年間の事業規模

対象施設数：10海岸 事業費：約18億円

## 7. 今後の方針

原則、5年ごとに定期点検を実施し、優先度等の計画内容を見直す